

シリーズ豊前市 SDGs とは？ “誰一人取り残さない持続可能な社会”を実現する世界共通目標である SDGs。全部で 17 個ある SDGs の目標を、地域の視点を取り入れ、そして一人一人ができる取組事例を取り入れて、毎月 1 つずつご紹介していく 2022 年 1 月から開始した連載です。地域の未来のために、私たちと私たちの大切な人が持続可能であるために。豊前で始める最初の第一歩。毎月 SDGs を一緒に学びながら、**自分にできることを一緒に始めていきましょう。**

目標 12 「つくる責任つかう責任」～持続可能な方法で生産し、責任をもって消費する～



わたしたちは、たくさんの資源やエネルギーを使って多くのものを生産し、大量に消費して暮らしています。このような大量生産・大量消費の暮らしは、地球にとっても大きな負担をかけています。1970 年代以降、地球が 1 年間に生み出すことができる資源の量より、人類全体が 1 年間暮らしていくために消費する資源の量の方が多いう状態が続いています。現在、人類全体の生活を支えるには、地球が 1.7 個必要とも言われています。つまり、私たちの生活は、魚を獲り過ぎたり、森を切り過ぎたり、未来の資源やエネルギーを先に使ったりすることによって成り立っているのです。豊かな地球の資源には限りがあります。わたしたちは、ずっと続けられるような生産や消費をしていくことで、美しい地球を未来につなぐ責任があります。日本では「食品ロス」が大きな課題です。日本の食品ロスは年間約 612 万トンもあり、これは日本の全国民が毎日茶わん約 1 杯分の食べ物を捨てている計算になります。これは、国連世界食糧計画(WFP)の世界の飢えに苦しむ国や地域への食品援助量 420 万トンの約 1.5 倍。世界中に飢えに苦しむ国や地域がある一方で、日本では、それ以上の食べられる食べ物が捨てられています。

12 つくる責任つかう責任

豊前市の取組 | 小型家電のリサイクル 地域に愛着を持つ皆さんが、次の世代に資源を繋ぎ、住みやすい地域づくりを目指すしくみ

わたしたち、モノやサービスをつかう消費者として、目標 12 の達成に向けてできることはたくさんあります。「3R (リデュース・リユース・リサイクル)」に積極的に取り組むこともその一つです。豊前市では、先の東京オリンピックで全国的に開催された「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」に参加し、小型家電に含まれるレアメタルでオリンピックのメダルを作る取組に参加しました。終了後も、「アフターメダルプロジェクト」として、継続して取り組んでいます。地区のステーションでの定期的な回収のほか、国の認定事業者でもあり、また、豊前市と協定を結んでいるリネットジャパンリサイクル株式会社が、**宅配便による不要なパソコンや小型家電の回収を行っています。**パソコンが同梱されている場合は、**回収費用もかかりません。**豊前市では、2022 年度までに回収した携帯電話が 112 台、パソコン 216 台となっています。引き続き、貴重な資源を次の世代に繋いでいくため、**不要なパソコンや小型家電をお持ちの皆様のご協力をお願いいたします。** 宅配回収のお申し込みは、インターネットから **リネットジャパン** で検索 お問合せは 生活環境課 環境対策係 ☎82-8018

SDGs の主人公はわたしたち 身近なところにある SDGs 一人一人ができる取組事例



目標 12 「つくる責任つかう責任」は「持続可能な方法で生産し、責任をもって消費する」ことを目指す重要な目標です。今回ご紹介する取組以外にも、個人でできる取組はたくさんあります。まずは新聞や公共施設など周囲に目を向け、身近に自分ができる取組が紹介されていないか、そしてヒントが隠れていないか探し、できることから始めましょう。

<わたしたちにもできること>

- ① 賞味期限の近い商品を買うこと、食べきれない分を注文して、食べ残しをしないこと
- ② 食材を買い過ぎず、買った食材は使い切る、食べること
- ③ マイバッグを持って包装は断わったり、詰替容器に入った製品を選んだりすること
- ④ フリーマーケットなどで、使わなくなったものの再使用に努めること、資源ごみの分別回収に協力して、リサイクル製品を積極的に利用するなど、資源を生かす取組をすること

株式会社ニコン日総プライム 水谷洋司(英国 CMI 認定サステナビリティ(CSR)プラクティショナー)